様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１２日現在

機関番号：２４４０３
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５３０６１０
研究課題名（和文）　スクールソーシャルワークのメゾ・マクロ実践モデル構築
研究課題名（英文）　Construction of the models for mezzo and macro levels of school social work practices

研究代表者
山野　則子　（YAMANO NORIKO）
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：50342217

研究成果の概要（和文）：スクールソーシャルワーク事業の確立のために、実証的研究を重ね、実践モデルを模索してきた。そのモデルを本格的に実施できるようプログラム化し、実際に試行調査を行い、その効果を明らかにした。実践モデルに沿ったスクールソーシャルワーカーの動きを表すＤＶＤを作成し、そのモデルの普及に努めた。さらに、その評価を得て、進化すべく新しくメゾ・マクロ実践における課題を取り入れてスクールソーシャルワークのあり方を追求した。

研究成果の概要（英文）：In order to establish school social work, we have sought the models for school social work practices by performing empirical studies. After programing the models that can be implemented actually, we conducted trial survey and demonstrated the effect of the models. Making a DVD that shows how school social workers should practice could spread the models. In addition, we underwent evaluation of the models and researched how school social work should be by taking into account the problems of mezzo and macro levels of practices toward a new goal.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会福祉学
科研費の分科・細目：社会福祉学
キーワード：学校・ソーシャルワーク・実践モデル

１．研究開始当初の背景

先行研究で議論されてきたスクールソーシャルワークは、日本では制度的実体のないなかでの研究であり、日本においてはミクロレベルの実践に関する研究に終始してきた（Allen-Meares,P., Washington,R.O,&Welsh,B.L,=2001 ； 山野 2006）。しかし、2005 年に大阪府がスクールソーシャルワーク事業を開始し（大阪府教育

委員会,2005)、教育行政と協働で取り組んできた、その実践をモデルにソーシャルワーク研究として提示し（山野 2006；2007）、文部科学省においてプレゼンテーションを行い、実証的研究の結果を示してきた。また大阪府スクールソーシャルワーク事業は実践現場の視察を受けてきた。そのような動きのなかで、国の事業として 2008 年スクールソーシャルワーク事業の実施を実現してきた。つまり研究レベル、実践レベルにおいて、教育行政との協働、ミクロ実践からマクロ実践までの展開を提示してきた。これは、スクールソーシャルワーク研究や実践の発展に大きくつながったと考える。

具体的には、2009 年度まで実施してきた「日本におけるスクールソーシャルワークの実証的研究―福祉の固有性の探究―」において、ニーズ調査から、一定の実践モデル作りまで行い、発表してきた（平成 19 年度科研報告書；日本学校ソーシャルワーク学会 2008；日本社会福祉学会 2008；日本子ども家庭福祉学会 2009；国際スクールソーシャルワーク学会 2009）。さらに、この経緯は社会福祉学研究においても海外においても注目され、発表の要請を受けてきた経緯がある（業績欄参照：日本実践理論学会企画シンポジウム 2009；日本社会福祉学会大会企画シンポジウム 2009；スクールソーシャルワーク国際学会 2009)。カナダ･オンタリオ州トロント市、アメリカ合衆国・イリノイ州のスクールソーシャルワークの調査も行い、まとめている（山野 2007；2008）。またイリノイ大学との国際交流を実施し、全国からの参加者を得た（山野・徳永 2009）。このように先進地のスクールソーシャルワークからの学びも生かしながら、日本のあり方を模索してきた。その日本独自の始まりを海外に発信することも行ってきた（スクールソーシャルワーク国際学会 2009）。今後、スクールソーシャルワーク開発を実証化する必要があるであろう。

つまり、現段階で明らかにしてきたことは、学校のなかで、特にスクールソーシャルワークの必要とされる領域を明確化し、その領域におけるスクールソーシャルワーク実践のプロセスを示してきた。それは、単なるミクロ実践や技術ではなく、学校という実践の場であることや、教師の価値観や認識からなる学校文化（志水 2005）に、そして教育委員会という教育行政に大きく影響していた。これらも含めてのプロセスを考える必要があり、日本における学校におけるソーシャルワーク実践の独自性である。

２．研究の目的

①スクールソーシャルワークを開発するプロセスを明示化することによって、マクロ実践を明らかにし、事業化に至る全体像を明らかにする。イリノイ大学において、今まではミクロレベルの調査を行ってきたので、マクロレベルの経緯を明らかにするために必要なヒアリング調査を行う。

②今までの研究、グラウンデッド・セオリー・アプローチによって明らかにした、教員が最も困難を抱えている領域―保護者に問題意識のない領域―において、実践モデルを試行、普及させる。

③実践モデルを場面特化する形でわかりやすく DVD 化し、普及する。

④並行して、スクールソーシャルワーク実践の効果測定を実施する。

３．研究の方法

①海外ヒアリング調査、②試行調査、③DVD 作成、④コスト評価法なども検討し効果測定を行う。

４．研究成果

海外ヒアリング調査結果は学会誌に掲載し、英文バージョンの HP、試行調査結果を含んだ「スクールソーシャルワークハンドブック改訂版」、スクールソーシャルワーカ―の

活動の１つケース会議のプロセスの DVD、効果測定お結果のリーフレットを作成した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１３件）

① 山野則子、福祉と教育の架け橋　スクールソーシャルワーカーとは、健、日本学校保健研修社　査読無、2012-11 月号、2012、40-43

② 山野則子、スクールソーシャルワークの概要、学校運営、全国公立学校教頭会、査読無、No.616、2012、16-19

③ 森戸和弥・山野則子、イリノイ州におけるスクールソーシャルワーク発展のプロセス―聞き取り調査より―、学校ソーシャルワーク研究、日本学校ソーシャルワーク学会誌、査読有、第 7 号、2012、40-50

④ 森戸和弥・山野則子、イリノイ州におけるスクールソーシャルワーク研修の報告（招待論文）、国際社会福祉情報、京都国際社会福祉協力会、査読無、第 35 号、2012、135-20

⑤ 山野則子、日本のスクールソーシャルワークの現在（招待論文）、国際社会福祉情報、京都国際社会福祉協力会、査読無、第 35 号、2012、5-12

⑥ Noriko Yamano , The Role and Challenges of School Social Work- An Examination from Practice in Osaka-,School Social Work Journal Vol.36,No1, 2011 September,.1-15.

⑦ 山野則子、スクールソーシャルワークの可能性、高校生徒指導、査読無、2011、48-53

⑧ 厨子健一・山野則子、スクールソーシャルワーカーの実践プロセスに影響を与える要因 - 当事者に問題意識がない領域に関わるスクールソーシャルワーカーに着目して - 、社会福祉学、日本社会福祉学会誌、査読有、第 52 巻第２号、2011、30-40

⑨ 赤尾清子・山野則子・厨子健一、スクールソーシャルワーク実践に関する実証的研究、日本子ども家庭福祉学、日本子ども家庭福祉学会誌、査読有、第 10 号、2011、59-68

⑩ 山野則子、スクールソーシャルワークの役割と課題－大阪府の取り組みからの検証－、（招待論文）、財団法人鉄道弘済会、査読無、2010、10-18

⑪ 山野則子、第１章スクールソーシャルワークとは、スクールソーシャルワーク実践活動事例集、文部科学省初等中等教育局児童生徒支援課、査読無、2010、1-6

⑫山野則子、対抗的子公共圏と児童をめぐる福祉問題（招待論文）、社会福祉学、日本社会福祉学会誌、査読無、第 51 巻第２号、2010、124-128

⑬山野則子、市町村児童虐待防止ネットワークとコミュニティソーシャルワーク（招待論文）、コミュニティソーシャルワーク、日本地域福祉研究所、査読無、第５号、2010、32-42

〔学会発表〕（計２２件）

① 周防美智子・厨子健一・山野則子「スクールソーシャルワーク評価に関する研究―スクールソーシャルワーカー配置プログラムと効果的援助要素―」日本社会福祉学会第 60 回全国大会、2012 年 10 月 21 日、於関西学院大学

② 厨子健一・山野則子「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの効果―教師の協働認識，協働行為に与える影響」日本社会福祉学会第 60 回全国大会、2012 年 10 月 21 日、於関西学院大

③ 小山悟士・山野則子・厨子健一・周防美智子・森戸和弥・木崎恵理子「スクールソーシャルワーカー配置校における教員のタイムスタディ調査－スクールソーシ

ャルワーカーの効果の検討ー」、日本学校ソーシャルワーク学会第 7 回全国大会、2012 年 7 月 8 日、於四国学院大学

④ 周防美智子・山野則子・厨子健一「スクールソーシャルワーク評価に関する研究―スクールソーシャルワーカー配置プログラム―」日本学校ソーシャルワーク学会第 7 回全国大会、2012 年 7 月 8 日、於四国学院大学

⑤ 和田一郎・有村大士・三沢徳枝・山野則子「市町村で実施される家族支援プログラムの費用対効果分析」第 13 回日本子ども家庭福祉学会、2012 年 6 月 3 日、於大阪府立大学

⑥ 三沢徳枝・山野則子・有村大士・和田一郎「児童虐待の予防・対応の現状と課題～家庭訪問事業及び教育支援の実施状況から」第 13 回日本子ども家庭福祉学会、2012 年 6 月 3 日、於大阪府立大学

⑦ 山野則子「福祉と教育のコラボレーション」、第 13 回日本子ども家庭福祉学会、大会シンポジウム（企画者）、コーディネイター、2012 年 6 月 2 日、於大阪府立大学

⑧ 厨子健一・山野則子「教師が子ども・保護者対応に関するサポートを求める要因」、日本学校ソーシャルワーク学会第 7 回全国大会、2012 年 7 月 8 日、於四国学院大学

⑨ 山野則子「子どもと生活とソーシャルワーク～教育と福祉（貧困）のリンク～」（招聘）、日本学校ソーシャルワーク学会第 7 回全国大会、2012 年 7 月 7 日、於四国学院大学

⑩ 山野則子「教育をめぐるマルトリートメント」（招聘）、日本子どもの虐待防止学会第 17 回学術集会　企画者、2011 年 12 月、於つくば国際会議場

⑪ 山野則子「児童虐待における教育現場の予防的意義～スクールソーシャルワークの可能性～」日本子どもの虐待防止学会第 17 回学術集会　企画者、2011 年 12 月 3 日、於つくば国際会議場

⑫ 山野則子「「第 2 分科会　児童虐待対応、スクールソーシャルワーカーに何ができるのか―児童相談所、市町村とは違う役割からの可能性―」座長　第 6 回日本学校ソーシャルワーク学会大会　2011 年 11 月 20 日、於西南学院大学

⑬ 厨子健一・山野則子「スクールソーシャルワーカーの実践プロセスに関する施行調査～実践モデル開発研究として～」第 59 回日本社会福祉学会全国大会、2011 年 10 月 9 日、於淑徳大学

⑭ 山野則子・周防美智子・厨子健一・山口倫子「スクールソーシャルワーク実践における評価に関する研究ープログラム理論に基づいてー」第 59 回日本社会福祉学会全国大会、2011 年 10 月 9 日、於淑徳大学

⑮ 山野則子「私たち支援者は、何ができたのか、何ができなかったのか―当事者からの提言を受けて―」、第 12 回日本司法福祉学会全国大会、大会プレセッション当事者からの聞き手（招聘）2011 年 9 月 3 日、於関西福祉科学大学

⑯ 周防美智子・厨子健一・山野則子「スクールソーシャルワーカーの評価に関する研究－３つの連携プログラムに焦点づけて―」第 21 回アジア太平洋ソーシャルワーク会議、2011 年 7 月 17 日、於早稲田大学

⑰ 山野則子「発達障害を持つ人への支援」第 28 回日本ソーシャルワーク学会全国大会、大会シンポジウム　パネラー（招聘）、2011 年 7 月 2 日、於川崎医療福祉

大学

⑱ 山野則子「格差・貧困と子ども家庭福祉」第 12 回日本子ども家庭福祉学会全国大会　大会シンポジウム　コメンテーター（招聘）、2011 年６月 4 日、於熊本学園大学

⑲ 山野則子「スクールソーシャルワークの可能性－教育と福祉の協働を目指して」第 62 回日本教育社会学会大会、課題研究１、報告者（招聘）、2010 年９月 19 日、於関西大学

⑳ 厨子健一・山野則子「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの実践プロセス～M-GTA の分析から～」第５回日本学校ソーシャルワーク学会大会、2010 年７月 11 日、於大阪府立大学

21 山野則子「学校におけるソーシャルワーク実践と研究の検証～ソーシャルワークの視点から～」第５回日本学校ソーシャルワーク学会大会、大会シンポジウム（企画者）、コーディネイター、2010 年７月 10 日、於大阪府立大学

〔図書〕（計６件）

① 山野則子ほか『教育福祉学への招待』編著（著者数 23 人、編者：山野則子・吉田敦彦・山中京子・関川芳孝）、総 306 頁、せせらぎ出版、2012 年 3 月、（「第 7 章福祉と教育の融合」、「あとがき」担当、pp. 115-130、292-293.）

② 山野則子ほか『よくわかるスクールソーシャルワーク』編者（著者数 39 人、編者：山野則子・野田正人・半羽利美佳）、総 197 頁、ミネルヴァ書房、2012 年 4 月、（pp. ｉ－ⅱ ,2-3,30-31,66-67,90-91,98-99, 108-111,184-185,190-193）

③ 門田光司ほか『スクール［学校］ソーシャルワーク論』、編著（著者数 14 人、編者：門田光司・富島喜輝・山下英三郎・山野則子）、総 229 頁、中央法規出版、2012 年 4 月、（10-16,30-35,38-41, 179-183, 188-192）

④ 山縣文治ほか『社会福祉における主体論の展開』共著（著者数：15 人、編著：山縣文治、松原一郎、大塚保信）、ミネルヴァ書房、2012 年 9 月、（山野則子「第 7 章　ソーシャルネットワークの組織」担当、pp119-136）

⑤ 岩田正美ほか『MINERVA 社会福祉士養成テキスト　現代社会と福祉』共著（著者数：16 人、監修：岩田正美、大橋謙策、白澤政和）、総 293 頁、ミネルヴァ書房、平成 2012 年３月（山野則子「第９章福祉政策と関連する政策　２）教育政策とソーシャルワーク」担当、pp.226-235）

⑥ 山縣文治ほか『リーディングス日本の社会福祉８　子ども家庭福祉』共著（著者数：22 人、監修：岩田正美、編著：山縣文治）、総 416 頁、日本図書センター、2010 年 10 月、（山野則子「15 児童虐待防止ネットワークのマネージメントへの影響要因」担当 pp.266-283）

〔その他〕

ホームページ等

http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/index.html

◎DVD 作成

山野則子「スクールソーシャルワーカーによるケース会議」大阪府立大学

６．研究組織

(1)研究代表者

山野　則子（YAMANO NORIKO ）

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：５０３４２２１７

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：